

マルタニシ *Cipangopaludina chinensis* (Martens)

【選定理由】

タニシ科貝類は県内にヒメタニシ *Sinotaia histrica* (Gould)、オオタニシ *Cipangopaludina japonica* (Martens)と本種が分布している。本種は海に近い平野部の水田や用水路などにかつては食用にするほど多産し、最も親しみのある淡水貝であった(紀平, 1990)。

近年では水質汚濁、農薬散布、用水路の改修、水田の乾田化のため生息地、個体数とも著しく減少した。木村(1994)では、5地点のみで生息が確認されたにすぎず、そのいずれでも個体数が少なかった。その後、知多半島先端部の休耕田、額田郡、岡崎市(木村, 2014)、豊田市(川瀬・他, 2011)のため池や小河川で生息が確認されている。水田での生息地は明らかに減少しているため、将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。



額田郡幸田町, 2005年5月21日, 木村昭一採集

【形態】

成貝では殻長 60 mm に達するが、通常 30–40 mm 程度。各螺層は丸く膨れ、縫合は深くくびれる。殻は薄く壊れやすい。蓋は革質で赤褐色。オオタニシと区別が難しい個体もあるが、本種の胎殻(体内に保有している胎貝)がソロバン型のオオタニシとは異なり周辺の角が弱い。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように県内での水田での生息場所は著しく減少し、個体数も減少している。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島に分布、国内では北海道南部から九州、沖縄諸島に分布する(紀平, 1990)。

【生息地の環境／生態的特性】

かつては水田に多産したので、水質汚濁、農薬散布、用水路の改修、水田の乾田化などの影響の少ない水田を含めた低湿地には現在も比較的多くの個体が生息する。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような生息地の消失が大きな原因である。

【保全上の留意点】

水質の浄化、無秩序な護岸工事を避けることは当然であるが、水質汚濁、農薬散布、用水路の改修、水田の乾田化などの影響の少ない水田を含めた低湿地の保全が不可欠である。

【引用文献】

紀平 肇, 1990. 琵琶湖淀川淡水貝類. 131pp. たたら書房.

川瀬基弘・早瀬善正・市原 俊, 2011. 豊田市に生息する淡水産貝類. 陸の水, 48: 9–16.

木村昭一, 1994. 東海地方の淡水貝類相. 研究彙報(第 33 報): 14–34. 全国高等学校水産教育研究会.

木村昭一, 2014. マルタニシ, p. 328.in : レッドデータブックおかげさき 2014, 362pp. 岡崎市.

(木村昭一)